

Title	ゴミ処理問題の解決とリサイクルの推進 - C社のゴミ問題を事例として -
Sub Title	
Author	安達祐隆(Adachi, Yutaka) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1996
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1996年度経営学 第1228号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1228

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

安達 祐隆

主査 河野 宏和

(東京コカ・コーラボトリング株式会社) 副査 小野桂之介

山根 節

所属

河野 宏和 研究室

ゴミ処理問題の解決とリサイクルの推進

—C社のゴミ問題を事例として—

本研究では今日のゴミ処理の問題に対し、清涼飲料会社C社の事例を参考にリサイクルフロー図を作成し、その解決策の検討を行った。

現在、飲料容器を初めとする食品包装容器は全国の一般ゴミ全体のうち、容積比で約60%を占めており、しかもその殆どが埋め立てられているという状況である。埋立残余容量の不足、埋立による自然環境の破壊などに対し、C社を初め業界各社には今以上にゴミを増やさないための努力が望まれる。しかし、C社で現在一部行っている空缶類の回収作業は、経営を圧迫する大きな要因となっており、今後ゴミを増やさないために回収率を上げるとするならば、C社の事業は成立しないものとなり、早急な解決が望まれる。

本論文1章～3章では上記の問題意識に基づき、C社と社会に関わる具体的なゴミ問題について述べ、4章においてC社に関わる全体のリサイクルフロー（モノ、量、費用、C社のゴミの行方、部門別の問題）を用いて、問題点の抽出と分析を行った。次に、4章の結果から、一つの解決方法としてリサイクルの事業化を取り上げ、5章でその実現性についてリサイクル事業者を分析し、6章にて具体的な事業化の検討とその実現可能性についての評価を行い、C社のゴミ問題を事業として捉えることで問題が改善できることを明らかにした。更に7章では、これらの研究結果を踏まえ、一般的なゴミ問題の解決策として、1.ゴミをゴミとして捨てない意識が重要であること、2.ゴミをゴミとして捨てないためのインフラが必要であること、を述べ、今後の企業、消費者、行政の在り方についての提言も行っている。